

### 1. 実況上の着目点

① 偏西風は日本付近で500hPa 5700m付近と5820m付近にあり、南北に分かれた雲バンドに対応。本邦は晴れている所が多い。地上では、リッジに対応した高気圧が日本の東を東へ移動、黄海の上層高気圧と結びついた高気圧が日本海で停滞。

② ①項の北の流れから切離した寒冷渦が東海道沖をゆっくり西進。500hPaで-18℃以下の中心付近は連続的に発雷を検知。21時の潮岬高層観測では沈降による低湿層が下層に達し、寒冷渦北側で離れた陸上では強い対流は抑制。

③ ②項の寒冷渦から南西諸島にかけてトラフがあり南下。①項の高気圧が周辺に張り出しており、トラフ付近では発達した対流雲はみられない。高気圧と前線との間は気圧の傾きがやや大きく、日本の南から沖縄近海にかけて、広くやや強い東寄りの風。波が徐々に高まり、波高2m以上の範囲が拡大中。

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の日本海の高気圧は、17日にかけてほとんど停滞し、本州付近を覆う。18日は日本の東に中心を移すが、西日本にかけて高気圧圏内。18日にかけて、上層からの気層の沈降に伴う昇温により、本州付近は850hPa 15℃前後の暖かく乾いた空気が前日よりも拡大。朝晩は低い雲や霧が出やすいが、日中は晴れて内陸を中心に気温が上がり、真夏日となる所が増える。熱中症などの健康管理に留意。

② 1項②の寒冷渦は、16日は伊豆諸島近海で停滞、17日には日本の東を東進する。1項③のトラフは、上空の流れから切り離されて寒冷渦となり、18日にかけて南西諸島付近でほとんど停滞、18日には1項①の上層高気圧が北のリッジとともに東進するのに伴い、高気圧西側の流れに沿って徐々に北上。伊豆諸島では17日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。寒冷渦の北側や西側となる東～西日本の太平洋沿岸や南西諸島では、影響は小さい見込みだが、寒冷渦の動きが予想と異なる場合や夜間は沿岸の海域で雷を伴う対流雲が発達する可能性があるので動向に留意。

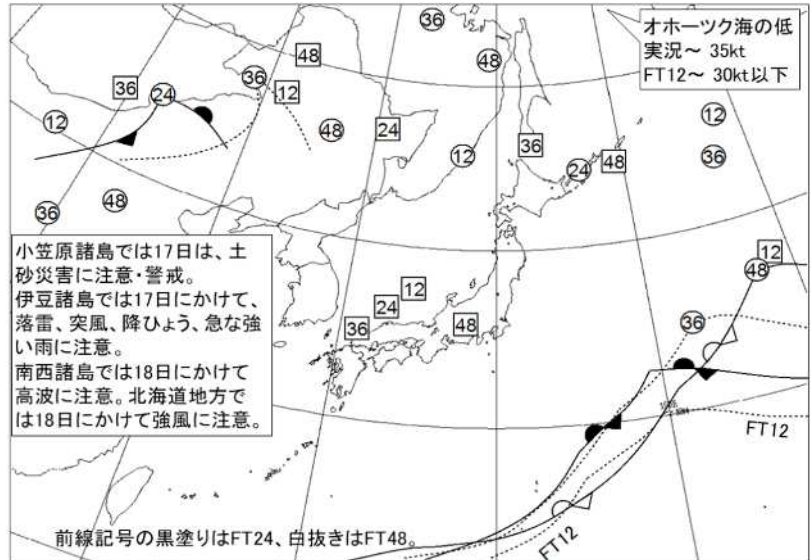
③ 2項②の寒冷渦の東進に伴い、16日から17日にかけて小笠原近海で前線が北上、その後、日本の東の前線上に低気圧が発生するのに伴い前線は南下する。前線付近となる17日は強い雨が断続して降り、大雨となる所がある。小笠原諸島では17日は土砂災害に注意・警戒。雷の発生にも留意。

④ 1項③の広い範囲でのやや強い風の持続により、南西諸島では17日をピークに波が高くなる。18日にかけて高波に注意。日本海北部～オホーツク海を低気圧や気圧の谷が繰り返し通過するのに伴い、強い風が吹く所がある。北海道地方では18日にかけて強風に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：沖縄・奄美3m。③ 大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図